

令和元年度第1回木曾悠久の森管理委員会 議事概要

開催日時 及び場所	令和元年10月1日（火）15:00～17:00 木曾森林管理署多目的ホール
出席委員	<p>青山 節児 （中津川市長）</p> <p>飯尾 歩 （中日新聞社論説委員）</p> <p>池田 聡寿 （池田木材株式会社代表取締役社長）</p> <p>植木 達人 （信州大学農学部教授）</p> <p>大浦 由美 （和歌山大学観光学部 教授）</p> <p>大住 克博 （鳥取大学農学部フィールドサイエンスセンター教授）</p> <p>大屋 誠 （上松町長）</p> <p>岡野 哲郎 （信州大学農学部教授）</p> <p>野村 弘 （木曾官材市売協同組合理事長）</p> <p>正木 隆 （国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所研究企画科長）</p> <p>増田 正昭 （信濃毎日新聞社編集委員）</p> <p>山本 進一 （独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部長（特任教授））</p> <p>山本 博一 （東京大学名誉教授）</p> <p>横山 隆一 （公益財団法人日本自然保護協会参事）</p> <p>管理委員16名中14名出席 五十音順</p>
議題	<p>（1）審議事項</p> <p>ア 赤沢地区の森林総合利用（案）について</p> <p>イ 木曾悠久の森試験地一覧表（案）について</p> <p>ウ 令和元・2年度スケジュール（案）について</p> <p>（2）報告事項</p> <p>ア 各専門部会での審議状況について</p> <p>イ 令和元年度各種事業予定について</p> <p>ウ 助六実験林70%漸伐試験地の天然更新について</p>
概要	<p>○委員からの主な意見</p> <p>（1）審議事項</p> <p>ア 赤沢地区の森林総合利用（案）について</p> <p>・利用者の入り込みを制限する区域における入林の記述について、「ただし、学術研究や自然観察教育を目的とするものを原則とし、かつ木曾森林管理署長が必要と認める場合に限るものとする。」としてはどうか。</p> <p>・本案については、定期的に見直しを行うことが必要であり、その旨を本文に</p>

記載すべき。

- ・本案のタイトルについて、「指針」あるいは「ガイドライン」であることを認識できるよう修正すべき。

イ 木曽悠久の森試験地一覧表（案）について

- ・継続して試験を行うとともに、時代や研究内容によって新たな知見を付加することも必要なので、引き続き専門部会において検討することが必要。
- ・100林班については、試験地として継続調査して欲しい。
- ・157林班について、「漸伐施業試験地」との名称では混乱を招く恐れがあるため、名称の見直しをするべきではないか。

ウ 令和元・2年度スケジュール（案）について

- ・意見なし

(2) 報告事項

ア 各専門部会での審議状況について

- ・意見なし

イ 令和元年度各種事業予定について

- ・意見なし

ウ 助六実験林70%漸伐試験地の天然更新について

- ・現地見学に向けて検討をお願いしたい。

【その他】

- ・温帯性針葉樹林についての理解・認知度を高めるために、パンフレット、映像などのコンテンツを整備すべきではないか。また、悠久の森が他の森林と何が違うのか明確化しなければならないのではないか。
- ・悠久の森がなぜ貴重なのか知って頂くことが必要。
- ・最近大きく気候が変化してきている中で、悠久の森をどの様に守っていくか考えて行かなければならない。そのため多くの人にシンポジウムなどを通して理解を求めていくことが今後必要ではないか。

以上